

## デイサービスでの看取り

P99

—「いつものように過ごしたい」という想い—

馬場 啓子 1、和泉安津砂 1、  
1.守里苑デイサービスセンター

自宅で看取りたいという家族の抽象的イメージを具体的にするには、訪問看護、デイケア、訪問入浴など介護サービス事業所の組み合わせが重要となる。訪問看護など医療系のサービスがメインとなることが多くあるが、そのような中デイサービスを選ばれたA氏との関わりを振り返り、いつもの毎日を生きるためのデイサービスのあり方を考えていきたい。

【事例Aさん 男性 83歳 心不全 動脈血栓により下肢切断 要介護2】

5年前、要支援2で包括支援センターからの紹介があり利用開始となった。2度入退院を繰り返し、要介護度は悪化していった。退院後には必ずデイサービスを再開し、いつものように、いつものままの雰囲気包まれてA氏は過ごしていた。3度目の入院では、1年間デイサービスを休み、退院後の状態は終末期であり、今後どこでどのように過ごすかカンファレンスが行われた。長男夫婦は「父は、『いつものように過ごしたい』そう思っているに違いない」という想いであった。A氏の母の在宅での看取りをA氏とその長男夫婦は経験している。その長男夫婦は、A氏の想いをそう語った。デイサービスで看取りが可能かどうかということが、いつものような毎日を過ごせるかどうかを左右することとなり、私たちは、デイサービスとして何ができるのか、不安ばかりであった。まず、不安を解消するために、次のことを確認した。

- ① 家族の意向の確認
- ② 主治医の治療方針の確認
- ③ ケアマネージャーとの連携
- ④ デイサービスでの過ごし方

\* 日中の過ごし方

\* お迎え時の対応

\* 送迎中の呼吸停止についての対応

\* 警察官の検視がデイサービス提供時間中に来た場合の対応

以上のことを確認し、ケアマネージャーにデイサービスでの看取りは可能であると応え、Aさんのデイサービスが再開となった。食欲の低下、飲水量の低下、長期入院(臥床安静)による血圧調整機能低下などみられたが、デイサービスの看護師、介護職員、利用者みんながかもしだす雰囲気がAさんを見守った。1週間後のその日は利用中より、血圧の変動がいつもより激しく、家族に連絡して少し早めに15時ごろお送りした。その翌日の明け方、長男夫婦と孫に囲まれ眠るように他界された。長男夫婦がA氏の母の看取りを経験し、A氏と向き合ったように、孫もいつか結婚し長男夫婦の老後と向き合う時、今回のことが大切な糧となるのに違いないと思う。

介護保険制度開始後、デイサービスは多様化され、目的別にデイサービスは選ばれている。私たちのデイサービスは、仲間が集い、明日も生きていたいと夢を語り合うデイサービスを目指している。初めて利用した時から変わらない、また、1年間休んでいても行きたい、そこに居てもいい場所がある、さらに明日も行きたい、につながっていく。今回私たちは、特別ではなくいつもの毎日の延長に「死」があり、そんな毎日を過ごしたいと思っている利用者の気持ちを知ることができ、信頼を裏切らないデイサービスでありたいと強く思うことができた。